

橋梁点検マニュアルの使用に関するアンケートの分析

令和2年2月 塚本 健雄

要旨

目的

日本では、高度経済成長期に道路整備が本格化し、橋梁の建設も盛んに行われた。これらの橋梁により利便性は大きく向上した。しかし、現在では、これらは高齢化の道をたどっており、橋梁の点検や維持管理を行うことは急務といえる。そこで、橋梁点検マニュアルの使用・講習会に関するアンケートをもとに、長野県内で働く技術者の属性によって橋梁の点検や維持管理に対する意識、点検の経験値に差はあるのか、マニュアルの改善点は何か、維持管理の問題点を分析する。

方法

橋梁点検マニュアルの使用・講習会に関するアンケートに回答した長野県内の技術者164人分のデータを集計した。そして、技術者の所属や年齢などの属性データや点検に参加した回数などをクロス集計し、分析を行った。また、点検マニュアルや維持管理の改善点についても考察を行った。

結論

点検の経験値について、どこの所属も同じ年齢層であるが、市・町・村に所属している人たちは県庁・建設事務所に所属している人に比べて点検の経験値は低く、同じ年齢層の人でも所属によって経験値は異なっている。

点検シートについて、属性に関係なくレベル1と比べてレベル2の理解度は下がっている。理由はレベル2の損傷度の判断基準に個人差があることだと考えられ、改善点として劣化や損傷などの写真例を増やすことが重要である。

重要度ランク表について、大きな改善点は必要ないと思われるが、台風等による増水時や震度の区分を加えるとより良くなると考えられる。

維持管理の問題点について、自治体の規模が小さくなると技術者自身の経験不足に加え、予算や人手不足といった根本的な問題点も見られた。

指導教員 曹 西 助教授